

「2024年国立台湾大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学工学部1年 鵜飼 夏帆

① 学習成果

今回のプログラムで最も大きく変化したのは、学習への意欲です。これまで流されるように過ごしてきた自分とは異なり、留学参加者の多くは言語だけでなく、文化、文学、植生など幅広い分野に積極的に取り組んでおり、大きな刺激を受けました。単位取得のための勉強ではなく、『～をしたいから～を学ぶ』という姿勢や、興味をもとに授業を選ぶ姿を目の当たりにし、私もそのような学び方をしたいと強く感じました。また、自分と同じように中国語を学びたいと考えている人たちに囲まれ、自分以上に努力している姿を見たことで、大きな刺激を受けました。さらに、外国の方と会話したり、立法院で議員の方とお話しする機会の中で、自分がどれだけ無知であったかを痛感し、それも学習意欲を高める要因となりました。中国語をもっとしっかり勉強したいと強く思っています。また、英語が苦手なことから、日本人以外の留学生との交流のためらい、英語の授業での理解も十分でなかったため、特に英語を自信をもって使えるように学び直したいと考えています。

② 海外での経験

これまで家族と海外旅行に行くことはありましたが、全て自分で責任をもって海外に行ったのは今回が初めてで、貴重な経験となりました。中国語が飛び交う環境での生活は、看板や乗換案内、料理の注文やタクシーでの会話など、日常のあらゆる場面が学びにつながり、新鮮で楽しいものでした。ただし、観光計画をあまり立てずに出発したため、情報収集をしっかりと行っていた他の学生に比べて観光を楽しめなかった点は反省点です。しかし、約三週間という短期間でも現地地で生活できたことは、大きな自信になりました。

③ プログラム内容

午前中は中国語の授業があり、すべて中国語で行われたため、リスニング力やスピーキング力が大きく向上しました。レベル別に5つのクラスがあり、最初は中間レベルのクラスにいましたが、人数が多くレベル差も大きかったため、途中で1つ上のクラスに移りました。難易度は上がりましたが、話す機会が増え、先生や周囲の支えのおかげで充実した授業を受けることができました。午後は台湾文化の授業や活動があり、自分では調べないような内容を学ぶ良い機会でした。しかし、英語中心の進行で、十分に理解できない部分があったことが残念です。

④ 進路への影響

今のところ大きな進路の変化はありませんが、海外での生活や大学での学びを経験したことで、将来的に長期留学や海外の大学院への進学を視野に入れるようになりました。